

令和 8 年 5 月 29 日

Science Knot 新棟に最先端電子顕微鏡施設を開設
～中四国初の装置導入を記念し、6 月 5 日に式典開催～

このたび、広島大学持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所 (WPI-SKCM²) では、J-PEAKS(地域中核・特色ある研究大学強化促進事業) の支援を受け、産学界で需要の高い分析電子顕微鏡 (TEM/STEM) を新たに導入し、学内外の研究者や企業が利用できる共同利用施設を開設します。

本施設には、中四国地域で初となる、原子分解能での TEM/STEM 観察が可能な先端電子顕微鏡「NEOARM」を導入しました。材料科学や半導体、ナノテクノロジー分野など、幅広い研究・分析ニーズへの対応が期待されています。

また、本施設ではネーミングライツの公募を行い、導入装置メーカーである日本電子株式会社 (JEOL) が命名権者に決定しました。JEOL は、本施設の技術支援を行い、広島大学との連携をさらに強化します。

このたび、本施設の開設を記念し、下記のとおり式典を開催します。当日は、ネーミングライツ看板のお披露目を行うほか、施設担当教員より、先端電子顕微鏡を用いた分析技術や共同利用の仕組みについてご説明します。

ぜひご取材くださいますようお願い申し上げます。

記

日 時：令和 8 年 6 月 5 日 (金) 14:00～14:30
場 所：広島大学 東広島キャンパス Science Knot 1 階
先端電子顕微鏡施設

出席者：広島大学
理事・副学長 (研究担当) 宮崎 誠一
WPI-SKCM²拠点長代理 木村 昭夫
日本電子株式会社
取締役兼常務執行役員 小林 彰宏
執行役員 高橋 清人
ほか関係者

 JEOL x Hiroshima University
Knotted Room

【用語解説】

TEM（透過型電子顕微鏡）

電子線を試料に透過させて観察する顕微鏡。物質内部の微細構造を高倍率・高分解能で観察できる。

STEM（走査透過型電子顕微鏡）

細く絞った電子線を試料上で走査しながら観察する顕微鏡。原子レベルでの構造観察や元素分析が可能。

NEOARM

日本電子株式会社が開発した先端分析電子顕微鏡。TEMとSTEMの双方に対応し、高い空間分解能と分析性能を備える。

J-PEAKS

文部科学省による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」。地域の中核となる研究大学の研究力強化や国際展開を支援する事業。

WPI-SKCM²

「持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所」の略称。広島大学に設置された世界トップレベル研究拠点であり、持続可能社会の実現に向けた新物質研究を推進している。

Science Knot 棟

J-PEAKSとWPIの二つの国の研究支援事業を背景に、地域中核研究大学としての機能強化と世界トップレベル研究拠点の形成を両立するため、一体的に整備された合築施設。

<会場地図>



【お問い合わせ先】

広島大学持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所 (WPI-SKCM²)
特任教授 中室 貴幸
MAIL:muro@hiroshima-u.ac.jp TEL:082-424-7794